

スタートアップ部門 まちづくり活動計画書

1 助成を受けようとするまちづくり活動について

団 体 名	桃山学区防災ミーティング
まちづくり 活 動 名	地域の連携協力による防災力強化と助け合いの環境づくり
活 動 地 域	名古屋市緑区桃山学区全域
活 動 の 背 景	私たちが住む地域に南海トラフ大地震等による災害が起きたとき、災害への備えが十分でないことや、居住者が高齢化しているため地域を守るための活動ができない心配があります。 桃山学区防災ミーティングでは、地域をつなぐ「連携の輪」の役割を担い、参加組織の協力による防災態勢づくりや、町内会の自主防災活動の強化、助け合いの仕組みづくりをすることで地域の安全度を高める活動をすることにしています。
目的・目標	■ 目的 ①地域の防災力の強化 ②助け合いの仕組みづくり ③地域の安全度を高める ■ 目標 ①地域防災の仕組みをつくる ②地域防災計画・防災マニュアルをつくる ③防災訓練を積み重ねて防災態勢の確実性を高める ④地域の助け合いの仕組みをつくる ■ 成果 「安全」「助け合い」が実感できる地域の誕生 実践的な防災の仕組みづくり
活 動 内 容	桃山学区内の関係団体（23団体）が参加する話し合いの場として全体ミーティングを開催して地域（19町内会）やそこに住む人達の意見を反映した防災活動づくりを進めています。 防災活動づくりに際しては、地域（町内会）が抱える個別事情や心配事を把握するための個別ミーティングを行い地域の状況を取り入れた内容にするようにしています。 全体及び個別ミーティングを繰り返す中で、地域ごとの防災ニーズ等に基づく防災活動と学区内全域の活動間で整合を図りつつ、地域防災計画・防災マニュアルとして整備するようにしています。 地域防災計画・防災マニュアルを実践的な内容とするために、防災訓練と反省会を毎年行い、これに基づく見直しを基にして災害時に機能する内容にする取り組みも進めています。 前年度の防災訓練では、発災後の初期活動として、住民相互による全世帯の安否確認訓練を行い助け合いの仕組みづくりに向けた歩みを開始しました。 また、地域の防災活動を着実に進めるための広報啓発活動や毎年行われるメンバー交代に伴う引継リスク軽減にも取り組んでいます。
期 間	令和2年4月 ～ 令和3年3月
助成金交付 申 請 額	10万円

2 まちづくり活動の視点

以下の視点で活動内容についてご記入ください。

審査基準① 必要性	・地域に根ざしたまちづくり活動内容か ・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か ・活動の実施にあたって、まちづくり活動助成金が必要な活動か ・活動メンバーのみの趣味や仲間づくりではなく、多くの人に理解や共感が得られる活動か
	1. 話合いの場として、学区内の関係団体（23 団体）が参加する全体ミーティングと町内会単位で行う個別ミーティングを設けて地域の事情や心配事に応える様にするなど、地域の状況に配慮して活動しています。 2. 安否確認訓練として行う「住民相互による全世帯の安否確認活動」は地域内の助け合いの仕組みの大切さを意識できる活動であり、地域に「助け合いの環境づくり」を根づかせるための活動として行っています。 3. 当団体の活動が定着し地域全体が防災活動の大切さを感じ、自主的な活動が育つ様になれば参加団体への支出要請も考えられますが、足並みが不揃いな現段階では活動維持のために助成金が不可欠な状況です。 4. 災害に備える活動、地域の高齢化を意識した活動、助け合いによる地域づくりに資する活動であり、町内会ごとに問題意識は異なるものの賛同が得られています。
審査基準② 実現性	・活動内容が具体的になっているか ・活動内容の資金計画などは妥当か ・人員や規模などは妥当か
	1. 今年度はコロナウイルス感染予防のため、活動の原点としている「話合い」の機会を十分に確保することが難しく、代わるものとして、お手紙、電話、メール等を中心に皆の意思疎通を図ることになります。また防災アンケートを使って地域全体の意見集約により活動のレベル維持を図ることも計画しています。 2. コロナウイルス感染予防に伴う活動計画の見直しにより、参加者が多数集まる活動の中止、「話合い」方法の見直し、防災訓練の内容変更等に伴い、予算計画も大幅な変更が必要になっています。その中で、今年度の助成金では、地域防災計画の隘路となっている、消火、救出・救護活動や安否確認活動の準備を進めることにしています。 3. 参加団体は 23 団体 45 名ですが、地域内の関係団体に呼びかけて参加者を増やし、活動の輪を広げて行く予定です。特に、災害時に必要な若手の存在が大事なので積極的なアプローチを行うつもりです。
審査基準③ 発展性	・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか ・活動実施後に、地域のまちづくり活動にどのような波及効果を及ぼせるか
	1. 桃山学区防災ミーティングとしての当面の活動は今後 3 年程度としており、その後は関係団体の他に行政、学校、医師、企業等も参加する「防災組織」として整備し、組織力、人材力、資金力を有する活動に育てることにしています。 2. 「助け合いによる防災活動」は地域内の他の活動（防犯、環境、見守り、養育等）への展開が期待できるので、活動を継続することで、地域全体の助け合い環境づくりに貢献したいと考えています。

- 3 活動にあたり他団体（町内会、自治会他）、企業、行政の部署など協力する又は調整を図る必要がある場合には、その名称と内容を記入してください。既に連絡等を取っている場合にはその日付も記入してください。

名 称	内 容
1. 緑消防署徳重出張所	防災訓練の指導、講習会等において説明をお願いしています。 今後は初期消火の学習支援をお願いしたいと考えています。
2. 緑区役所	地域防災計画づくりに向けての助言をいただいています
3. 緑区医師会	災害時に神沢中学校に設けられる「医療救護所」の活用方法の相談を考えています。

※第2号様式は3ページ以内でご記入ください。用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

まちづくり活動の実施スケジュール

2020年 活動スケジュール

4月	—	活動計画の見直し、組織、連絡態勢づくり	①コロナウイルス感染対策と活動計画の再検討 ②2020防災組織を確認、緊急連絡体制を確保 ③助成金の申請準備 ④NEWSの内容検討
5月			
6月	—	活動再開に向けた諸準備	「スケジュール再調整」「都市センター助成申請」 「情報伝達訓練計画」
7月	—	情報伝達訓練計画の準備①	町内会調整、「NEWSの発行」
	31(金)	全体ミーティング ①	(活動計画、情報伝達訓練、地域防災計画)
8月	—	情報伝達訓練計画の準備②	全体調整
	23(日)	情報伝達訓練	①情報伝達方法の実効性確認訓練 ②在宅による電話連絡の情報伝達訓練
9月	—	情報伝達訓練結果の確認	町内会等参加者からの聴き取り(電話、LINE)
10月	—	安否確認訓練計画の準備	計画の策定
	16(金)	全体ミーティング ②	安否確認、地域防災計画
11月	—	安否確認訓練	①安否確認用紙の配付、確認、回収、集計 ②町内会別に全世帯を対象として実施
12月	—	安否確認訓練まとめ	町内会データの集計等
1月	—	地域防災計画の方向づけ	町内会を対象とした地域防災計画への意見集約
	—	個別ミーティング	地域防災計画の概成に向けた全町内会との話し合い
2月	—	年度まとめ、次年度準備	一年の総括、地域防災計画
	26(金)	全体ミーティング ③	一年のまとめ、地域防災計画の概成、引継準備
3月	—	引継ファイル更新	安否確認ボード

まちづくり活動の予算書

1 支出

費目		活動項目	内訳	数量	単価	金額	内訳
1	物品費	防災活動時用品	ビブス(ベスト)	25	2,200	55,000	前年度と同じもの 複数人登録に伴う追加分 (44-19=25)
2	物品費	防災活動時用品	バイザー (簡易キャップ)	25	500	12,500	前年度と同じもの 複数人登録に伴う追加分 (44-19=25)
3	物品費	災害時の救護用品	救出者搬送用簡 易担架	1	32,000	32,000	集合住宅からの救出用 (当面はデモ用とする)
4	消耗品費	活動継承用品 文書管理用	引継ファイル	22	300	6,600	前年度と同じもの 複数人登録に伴う追加分 (44-22=22)
5	消耗品費	防災訓練用品	初期消火用投水 パック	20	330	6,600	町内会の訓練用として配付
5						112,700	